

2020年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 笹月 桃子	職名 准教授	学位 医学博士(九州大学)
----------	--------	---------------

研究分野	研究内容のキーワード
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児緩和ケア</li> <li>・小児の生命倫理・臨床倫理</li> <li>・医療プロフェッショナリズム・医学教育</li> </ul>	小児、生命倫理、臨床倫理、緩和ケア、代理意思決定、きょうだい支援、医プロフェッショナルリズム

研究課題
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自身の意向を表明できない胎児・新生児・小児・障害児のいのちに関わる医療の方針決定に際する医師と家族の協働意思決定の在り方について</li> <li>2. 自己決定概念が基盤にある現代医療において脆弱な立場に置かれた子どもの最善の利益、尊厳はいかに捉えうるか</li> <li>3. 重篤な病態や重度の障害を抱える子どものきょうだいの心理社会的体験と彼らへの支援の在り方について</li> <li>4. 子どものいのちに関わる医療、その決定に携わる小児科医、看護師、家族の心理社会的体験と、現場還元性の高い支援の在り方について</li> <li>5. 子どものいのちに関わる医療のその不確実性に耐え得る医療者を育てる医学教育について</li> </ol>

担当授業科目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ</li> <li>・疾病学各論：小児科</li> <li>・遺伝看護学</li> <li>・緩和・終末期看護：小児緩和ケア</li> <li>・初年次セミナーⅠ・Ⅱ</li> </ul>

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ 】</p> <p>身体の構造と機能について断片的な個別の事象や名称の暗記科目にならないよう、生命の神秘、命の尊厳についても意識しながら、相互作用や因果関係、連携など流れを把握できるよう日常生活や医療現場での話も交え、マクロとミクロの視野にて講義を行った。</p> <p>復習の促しと知識の定着のために、毎回講義冒頭に前回講義内容を範囲とした小テストを施行した。後期に実施した解剖実習見学を通じて、いのちへの畏敬の念と医プロフェッショナルとしての覚悟を自身の内に芽生えさせ、自覚できるよう、綿密な事前事後学習の上で実習に臨めるよう支援した。</p>
<p>授業科目名【 疾病学各論：小児科 】</p> <p>範囲が膨大なので、疾患名と特徴的な症状の説明を一疾患一枚のスライドにて提示。適宜写真なども使用して視覚的に捉えやすくなるよう配慮した。対象として、成人との違いも意識させた。知識の定着のために、毎回講義冒頭に前回講義内容を範囲とした小テストを施行した。</p>
<p>授業科目名【 遺伝看護学 】</p> <p>外部講師2名を迎えてのオムニバス講義であった。臨床、実戦からの話が多いことが予想されたため、それらの話が理解できるよう、基礎的な遺伝学の知識の予習と復習ができるよう配慮した。また、倫理的な思考や心理的葛藤を経験する分野であり、負担にならないよう、表出の機会を設けた。</p>
<p>授業科目名【 緩和・終末期看護学：小児緩和ケア 】</p> <p>子どもが亡くなる、という事実に向き合う学習体験の峻烈さに配慮し、前向きなケアの在り方を紹介し、さらにこのような分野における看護師としての役割ややりがいについても紹介した。</p>

授業科目名【 初年次セミナー I・II 】

初年次セミナーI

- ①初めてのオンライン講義のため主要な講義資料は、事前に印刷物にして学生の手元に届けた。また、Google Forms を使い学生の情報環境の整備状況を把握した。
- ②本科目は教員 5 名で担当するため、講義の内容・指導方法について、講義前後に Meet 会議を行い詳細な打ち合わせをした。
- ③講義についての連絡や指示内容については、毎回、Google classroom を使い学生に詳細に掲示した。とくに、オンラインによるグループ活動は、初めての取り組みであったため、毎回の講義の指示については、教員間で統一をはかった。
- ④レポート作成の習熟を図るために、今年度は、レポート作成に関する講義を 2 回、文献の読み方についての講義を 1 回実施した。とくに、2 回目のレポート講義では書き方のポイントを再度抑える、文献の読み方では文献モデルを使い講義する、など講義担当者が学生の習熟度を上げることを意識し講義を実施した。
- ⑤情報収集に関する講義は、情報課・図書課に依頼しオンラインによる講義を行った。また、学生の情報環境で不具合などが発生した時には、情報課と連携し対処した。

初年次セミナーII

- ①初年次セミナーIIでは、初年次セミナーIで学修した基礎的知識・スタディスキルズの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。特に看護学科ではこれから学修する専門科目の基盤として「書く」「考える」クリティカルシンキングを意識したプログラムとした。8 回目より遠隔授業となったが、遠隔授業で対応できるように調整を行い、授業目標を到達できるように構成を考えた。
- ②講義を 2 コマ続けて実施することで、学習内容・進度にあわせた講義進行を行った。
- ③初年次セミナーIでの学生の意見を受けて文献カードの記載法や、学生が議論をとおして思考できるような課題発見のためのシートなども改良した。
- ④グループテーマを新聞情報等から問を見だし、文献検索を行うように指導を行った。文献検索は CiNii、GoogleScholar の利用方法について説明を行った。
- ⑤対面授業が可能となったため、初回にアイスブレイクを取り入れ、グループ間の交流をはかった。
- ⑥DP にそった評価指標をオリエンテーションで明示した。学生はレポート作成、発表と段階に応じた自己評価を行い、自己の振り返りを行うことができるようにした。
- ⑦遠隔によるパワーポイントでの発表は、全員の原稿やパワーポイントを 1 つにまとめることで、内容、スライドを統一する必要性について学ぶ機会とした。発表時の評価は、担当者 5 名に看護学科教員 1 名を加えた計 6 名で行った。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うようにした。
- ⑧最終日には、優秀賞の発表と他者評価をとおして自己の振り返りを行う時間を設けた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本小児科学会	日本小児科学会専門医 倫理委員会委員 (2020 年～)	1994 年～ 1998 年～
日本小児神経学会	第 58-62 回日本小児神経学会学術大会実践教育 セミナー企画責任 第 59-62 回日本小児神経学会学術大会シンポジウム 企画責任	2010 年～ 2015 年～
日本重症心身障害学会		2008 年～
日本小児血液・がん学会	教育研修委員会 (緩和ケア等事業委員会) 委員 (2015 年～)	2015 年～

日本緩和医療学会	日本緩和医療学会緩和ケア研修指導者 (2011年～) 将来構想委員会 小児緩和ケア WPG 員 (2014年～)	2015年～
日本生命倫理学会	第28回日本生命倫理学会年次大会プログラム委員 第30-31回同大会シンポジウム企画者	2016年～
日本臨床倫理学会	臨床倫理認定士 (2016年～)	2016年～

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 小児医療の臨床倫理アプローチ～話し合いを始めるときに共有したいこと～	その他	2020.4	へるす出版 著書名：小児看護と倫理 ～日常的な臨床場面での倫理的看護実践～ 編者：松岡真里	執筆者：松岡真里、笹月桃子、他18名 担当箇所概要：臨床における倫理的課題について、医師と看護師がいかに協働し得るかについて整理、提案した。(p28-34)
呼吸器症状に対する医療介入における倫理的な論点	単著	2020.5	脳と発達 52(3),38-43	重症心身障害児・者の呼吸器症状が進行した際、気管切開や人工呼吸器などの医療技術的介入に関し、本人を主眼に置いた、その方針の妥当性をいかに担保できるか。倫理的アプローチの論点を整理した。
話し合いのガイドライン 特集：いま求められる周産期生命倫理の知識	単著	2020.6	周産期医学 50(6),959-64	自己決定が基盤となる医療現場において最も脆弱な立場にある新生児や胎児の、最善の医療の方針を決定するための対話の礎となる話し合いのガイドラインについて、その意義と限界について整理した。
小児神経疾患の倫理的課題とアプローチ 特集：神経倫理ハンドブック	単著	2020.7	BRAIN and NERVE72(7), 785-96	成人の神経難病患者と比し、重篤な神経疾患を抱える小児に特徴的な倫理的課題と、最善の方針決定に至る過程の在り方について、最新の研究を紹介しつつ、事例ベースに概説した。
言語表出できない患者の苦痛の評価 特集：小児の鎮痛・鎮静」を実践するための TIPS	単著	2020.7	小児内科 52(7),906-10 東京医学社	神経疾患や脳障害を抱える子どものように、言語表出できない子どもの苦痛の評価と対応について、その考え方とアプローチについて整理した。

2020年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>(学術論文)</p> <p>Neurodevelopmental outcomes of high-risk preterm infants: A prospective study in Japan</p> <p>De novo ATP1A3 variants cause polymicrogyria.</p>	<p>共著</p> <p>共著</p>	<p>2020Aug</p> <p>2021 Mar</p>	<p>Neurology Clinical Practice</p> <p>Science Advances</p>	<p>Torio M, Iwayama M, Sawano T, Inoue H, Ochiai M, Taira R, Yonemoto K, Ichimiya Y, Sonoda Y, <u>Sasazuki M</u>, Ishizaki Y, Sanefuji M, Yamane K, Yamashita H, Torisu H, Kira R, Hara T, Kanba S, Sakai Y, Ohga S</p> <p>Miyatake S, Kato M, Kumamoto T, Hirose T, Koshimizu E, Matsui T, Takeuchi H, Doi H, Hamada K, Nakashima M, Sasaki K, Yamashita A, Takata A, Hamanaka K, Satoh M, Miyama T, Sonoda Y, <u>Sasazuki M</u>, Torisu H, Hara T, Sakai Y, Noguchi Y, Miura M, Nishimura Y, Nakamura K, Asai H, Hinokuma N, Miya F, Tsunoda T, Togawa M, Ikeda Y, Kimura N, Amemiya K, Horino A, Fukuoka M, Ikeda H, Merhav G, Ekhilevitch N, Miura M, Mizuguchi T, Miyake N, Suzuki A, Ohga S, Saitsu H, Takahashi H, Tanaka F, Ogata K, Ohtaka-Maruyama C, Matsumoto N.</p>
<p>(翻訳)</p>				
<p>(学会発表)</p> <p>小児緩和ケア総論・意思決定における倫理的な論点</p> <p>『小児神経疾患の緩和ケア 2020』</p>	<p>単</p> <p>単</p>	<p>2020.8.17</p> <p>2020.8.19</p>	<p>第62回小児神経学会実践教育セミナー</p> <p>第62回小児神経学会シンポジウム</p>	<p>小児神経科医が知っておくべき、小児緩和ケアの総論と意思決定に関わる倫理的な論点を整理した。</p> <p>重篤な神経疾患を抱える子どもの医療方針を決定する際に、価値的議論に先んじて、医学的事実として疾患の軌跡を共有する意義について概説した</p>

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
疾患の軌跡を辿る意義 (疾患の軌跡を意識する～重篤な神経疾患を抱えるこどもの意思決定支援～)	筆頭 (他 15名)	2020.8.22	第123回日本小児科学会 ポスター	小児神経科医が知っておくべき、小児緩和ケアの総論と意思決定に関わる倫理的な論点を整理した。
代理意思決定における小児科医の葛藤と役割	単	2020.8.23	第123回日本小児科学会 特別企画	重篤な病態を抱える子どもの医療の現場にアドバンス・ケア・プランニングの概念をいかに導入し得るか、その問題点や危惧も含めて問題提起した。
子どもの命に関わる意思決定の現状とこれから (「重篤な疾患を抱えるこども・家族と「これから」について話し合う～倫理学者・法学者とアドバンス・ケア・プランニングについて考える～」)	単	2020.12.6	第32回日本生命倫理学会 シンポジウム	子どものいのちに関わる代理意思決定における医療者と家族の協働の過程の対話に着目し、何が共有され、その最終判断に至るまでにどのようにその判断の重荷を分かち合っているか、その関係性について研究した結果と併せ、報告した。
一人ひとりの子どもに個別の価値を創成する対話、家族と医療者の協働意思決定の対話に迫る～何を共有し、いかに分かち合うか～				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
重篤な病態を抱える子どものきょうだいに対するパフォーマンスアーツを活用した支援の検討	本学共同研究費：2020年度	○ <u>笹月</u> 、野井、文屋、樋口、山本	1,671,000
小児緩和ケアの対象となる子どものQOL向上に向けた看護師教育プログラムの開発	2019-2023年度科学研究費基盤C	(○松岡、奈良間、川合、岡崎)、 <u>笹月</u>	4,680,000
新生児臨床倫理コンサルテーションシステム構築及び新生児医療の倫理的判断基準の検討	国立成育医療研究開発費：2020-2023年	(○賀藤、高橋、掛江、加部、横野、武藤、稲森、瀧本)、 <u>笹月</u>	4,700,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役職名等	任 期 期 間 等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚労省委託事業、現在日本緩和医療学会及び日本小児血液がん学会共催事業、「小児科医のための緩和ケア教育プログラム：CLIC」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム作成・コアファシリテーター・講師</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2010年～現在に至る年に2～4回定期開催継続中</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新生児生命倫理研究会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世話人</li> <li>・特別講演（2021.3.6）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年～現在に至る</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州大学病院小児緩和ケアチーム及び小児倫理コンサルテーションの活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2015年4月～現在に至る</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡市立こども病院</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理委員会外部委員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年4月～現在に至る</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児がんのこども・家族のための手引き（九州大学病院小児医療センター小児がん拠点病院事務局）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分担執筆</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年7月発刊</li> <li>・小児がん患者への支援に際し、小児緩和ケアの役割とそのアプローチについて概説した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第12回小児がんピアサポーター養成研修会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演（2020.9.1）</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニコゼミ講演会「命について」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演（2021.1.16）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO 法人ニコちゃんの会（重い病気や心身に障害のある者及び社会的弱者に対して、保健、医療及び福祉の増進を図る活動に関する事業団体）、定例勉強会</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもホスピスサミット in 福岡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座長（2021.3.6）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国のこどもホスピスプロジェクト活動団体が一堂に会し、地域社会にこどもホスピスの理念が広がるために何が求められているか議論した</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究支援（学会雑誌論文査読）</li> </ul>		

・九州大学医学部小児科	非常勤講師	2017年度～：医学生の講義
・中村学園大学栄養科学部栄養科学科	非常勤講師	2019年度～：小児疾病の講義
・京都大学大学院医学研究科	非常勤講師	2019年度～：医療倫理の講義

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）		
西南女学院大学 倫理審査委員 2018年～現在に至る		
西南女学院大学保健福祉学部 附属研究所 運営委員 2018年～現在に至る		
西南女学院大学保健福祉学部 看護学科 研究推進委員 2018年～現在に至る		
西南女学院大学保健福祉学部 看護学科 国試対策強化学習講義		